

# 第 13 回大学評価シンポジウム

## <プログラム>



- 開催日時：2024年3月27日（水）14:00～16:45
- 開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）
- 参加対象：大学評価及び短期大学認証評価の評価委員会委員・幹事、分科会委員・同候補登録者、財務評価分科会委員・同候補登録者
- テーマ：いま、評価者に求められること —ピアレビューに臨む姿勢—

### <<開催趣旨>>

かつて本協会の評価を「手作り評価だ」と述べた大学の学長がいました。これは、評価者同士で丁寧に議論し大学とも対話し、その大学にあった評価結果を導きだしており、それが大学の役に立っているという良さを述べたものです。この指摘も表すとおり、本協会は各大学の理念・目的に即し、それぞれの文脈に応じた評価をする特徴を有しています。一方、認証評価全般に対して大学を画一化するものだという批判もあります。認証評価としての社会的な役割ゆえに法定事項等を押しなべて評価せざるを得ず、実際、単にそれだけになってしまうケースもあるという指摘です。これは、大学に応じた評価をする本協会にあっても無縁なことではなく、常に留意しなければならない危険性と言えます。では、「画一化」評価に落ち込ませず、大学にとってためになる評価であるためには何が必要でしょうか。それは、評価者の力、姿勢だと思われます。指針等を傍らにおきながらも、その大学の歴史、規模、専門性、地域性などに沿って問いを立てること、そして大学との間、評価者との間で対話して評価を見定めていくこと、そうした評価者の力、姿勢が、評価を前向きなものにするといえましょう。評価を前向きなものにしていければ、その経験は各評価者が所属大学で質保証活動に関わるにあたっても、プラスの結果を持つことになるはずですが。

そこで、本年は改めて評価者のとるべき考え方に焦点を当ててみます。書面評価、実地調査等の各段階で着目すべきポイント・着眼点、「問い」の発し方等について、多くの大学に向き合ってきた評価経験者から話を伺い、参加者からの質問等も交えながらディスカッションしていきたいと思っております。

(敬称略)

14:00-14:05 (5分)	◆挨拶：田代守（大学基準協会事務局次長兼評価事業部部長）
14:05-14:20 (15分)	◆趣旨説明：中村安希（大学基準協会評価第1課課長）
14:20-14:40 (20分)	◆基調講演：木村彰方（大学評価委員会委員長・東京医科歯科大学）
14:40-15:10 (30分)	◆評価経験者話題提供：中村信次（大学評価委員会委員・日本福祉大学）
15:10-15:40 (30分)	◆評価経験者話題提供：中尾泰士（大学評価委員会委員・北九州市立大学）
10分	～ 休憩 ～
15:50-16:45 (55分)	◆パネルディスカッション、参加者からの質問への回答 パネリスト：登壇者4名 司会：工藤潤（大学基準協会常務理事・事務局長）